



赤い羽根共同募金助成事業

2020.9.9 版



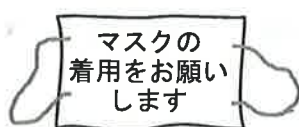
ウィズコロナ期の公共交通 シンポジウム ～だれでもが安全・安心に移動するために～

コロナウイルス感染拡大による外出自粛要請などの影響により、公共交通利用者は大幅に減少しました。公共交通は、高齢者や障害者の生活を支える重要な手段です。ウィズコロナ期においても、安全・安心な公共交通の確保が不可欠です。公共交通を利用すると、健康で幸せになる言われています。

鉄道・バス会社は、さまざまな感染防止対策を講じています。本シンポジウムでは、高齢者や障害者を含め、だれでもが安全で安心して公共交通を利用できるようにするため、ウィズコロナ期の地域活動を紹介し、公共交通のあり方を提案します。そして実践していきましょう。

【日 時】令和2年11月21日（土）13:30～16:30

【場 所】前橋工科大学（前橋市上佐鳥町 460-1） 1号館5階 151教室（正門を入れて正面の建物です）



◎	前橋駅(4 番乗場)	12:50	13:10
バス	前橋工科大学前	13:05	13:18

でご来場ください（永井バス、運賃 200 円）

前橋工科大学前	17:05	17:53
前橋駅(1 番乗場)	17:25	18:08



プ ロ グ ラ ム



【基調講演】13:40～14:30（50分）

「(仮) コロナ期でも安全・安心、そして健康で幸福になる公共交通」

古池 弘隆 氏（宇都宮大学 名誉教授、宇都宮共和大学 教授）



【地域活動 ショートレポート】14:40～15:20（40分）

報告1：交通崩壊を防ぐための緊急アピール
報告2：コロナウイルス感染期のバス事業（仮）
報告3：バスの乗り方教室報告

森田 哲夫 氏（交通からまちづくりを考える会 前橋）

小又 万里 氏（永井運輸株式会社）

奈賀 由香子 氏

（交通からまちづくりを考える会 前橋、のりのり学会）

報告4：地域での取り組み（仮）

佐羽 宏之 氏

（2015年からの生活交通をつくる会、わたらせ渓谷鐵道市民協議会）

報告5：地域での取り組み（仮）

大島 登志彦 氏（上毛電鉄友の会）

報告6：ウィズコロナの公共交通政策（仮）

細谷 精一 氏（前橋市交通政策課 課長）

【パネルディスカッション】15:30～16:20（50分）

「ウィズコロナ期の公共交通の役割と期待」

パネリスト 古池 弘隆 氏、大島 登志彦 氏、佐羽 宏之 氏、白石 勤 氏、〇〇 〇〇 氏

コーディネータ 湯沢 昭 氏（交通からまちづくりを考える会 前橋）

参加費：無料（事前申込は不要です）

主催：交通からまちづくりを考える会 前橋（代表：湯沢 昭 前橋工科大学名誉教授）

共催（予定）：のりのり学会、2015年からの生活交通をつくる会、上毛電鉄友の会、わたらせ渓谷鐵道市民協議会

後援：前橋工科大学、永井運輸株式会社



本シンポジウムは、
赤い羽根共同募金の助成を受けて実施します。

（「支える人を支えよう！新型コロナ感染下の福祉活動応援」全国キャンペーン）



連絡先：前橋工科大学 地域・交通計画研究室（森田）

電話：027-265-7362

メール：tmorita@maebashi-it.ac.jp